

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192200028
法人名	ALSOK介護株式会社
事業所名	グループホームみんなの家・志木柏町
所在地	埼玉県志木市柏町3-9-19
自己評価作成日	令和6年10月21日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702
訪問調査日	令和6年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の日課である体操や敷地内散歩が当施設のアピールしたい点です。施設というとなかなか外で歩く機会が減ることのないよう、ご入居者様にはいつまでも健康に過ごしていただくために日々取り組んでおります。また、季節のイベント行事も力を入れており、四季を感じていただけるよう、職員も企画をしております。また、ご入居者様一人ひとりのできることを生かし、生活で自身の力が発揮できるよう、一緒にお手伝いや協力いただける機会を設けております。今まで入居される前にされていたことが入居後も実践できるよう、日々の過ごし方についても職員間情報共有し、ご提供できているかと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東武東上線「柳瀬川」駅から徒歩12分の距離にあり、同一法人が運営する有料老人ホームの1階に2ユニットがある施設。フロア内での交流が盛んで、同一建物内の有料老人ホームの職員とも連携し、安心・安全な環境が整えられている。広い駐車場には多くの緑があり、立派な巨木もあり、入居者にとって良い散歩コースとなり、憩いの場となっている。運動教室や体操の時間を取り入れ、機能維持や健康維持に努めている。また、医療機関と連携し、看取りも行い、定期的な研修も実施している。職員は経験年数の長いスタッフと短いスタッフがバランスよく配置され、コミュニケーションを大切にしながら、笑顔を意識して支援に当たっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

7.1.10

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を念頭におきケアを行い、笑顔が絶えないホームづくりに取り組んでおります。理念の実現に向け取り組んでおります。	施設の理念「安心・安全・笑顔」に基づき、日々のケアが実践されているかを確認しながら対応している。施設長は頻繁に声掛けを行い、勤務年数の長い職員も多いため、理念は職員にしっかりと浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催や地域の方の受け入れ、体操教室にて一般の方の受け入れもブログ、チラシ等でお知らせしております。	自治会の回覧板は、元気な入居者と一緒に回している。今年は体操教室に一般の方も受け入れ、近隣住民との交流が進んだ。また、地域の行事が再開され、さまざまなイベントで施設に訪問があり、交流は活発だった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様向けに他事業所合同で健康教室の開催を行い、体操教室や認知症講座を実施させていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、定期的に実施できているが、参加人数も限られており、地域とご家族様が同時に参加ができるよう、今後工夫してまいります。	運営推進会議は対面での開催が再開されたが、行政などの参加は得られているものの、平日開催のため家族の参加は難しくなっている。要望や意見は事前に書面で受け取り、会議で反映している。	今後は家族の参加も得て、直接意見を聞く機会を設けるため、開催曜日を変更するなどして、さまざまな方の意見を取り入れることが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に高齢者あんしん相談センターや居宅介護支援事業所と連絡調整をとっています。	運営推進会議には包括支援センターも参加しており、日常的に協力関係を築いている。地域の情報共有のため、包括支援センターや居宅支援事業所を訪問するなどして連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度身体拘束適正化委員会、年2回の身体拘束の適正化のための研修を開催し、指針の確認や身体拘束に当たる行為などについて研修しております。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、年2回の研修も実施している。具体的な事例を通じて理解を深めており、研修後には理解度のチェックやレポート提出を行い、職員自身のケアの振り返りの機会となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回虐待防止委員会、年2回の虐待の防止のための研修を開催し、声掛けの方法や虐待事例などについて研修をしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を目指している研修の方の受け入れをし、成年後見制度について話をする機会を持ち、認知症について理解を深めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時にはご理解いただけるよう時間をかけてご説明させていただいております。いつでも問い合わせいただけるよう、お声掛けしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様、ご家族様からの意見等はできる限り対応しております。また、本部と連携し、反映できるよう努めております。	会話ができる方とは日常的な会話の中で意見を聞き、家族の意見は面会時や毎月送付する通信を通じて受け取っている。また、家族からの連絡を通じても意見を聞き、要望には可能な限り対応している。施設の様子はブログでも発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議やフロア会議で職員からの意見を聞いております。面談も定期的に行い、反映できること等は反映に努めております。	毎月の職員会議やフロア会議では職員が活発に意見を出し、業務改善案などが提案されている。また、年2回の個別面談でも意見や要望を聞く機会を設け、職員の働く環境の改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営本部の担当者が訪問し、勤務状態等把握しております。必要であれば管理者、職員とも面談しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営本部による研修を行っております。また、時間をみて業務・ケアのレクチャーを実施しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流を行っており、管理者同士の情報交換や他事業所への訪問を行っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査や入居時の契約の際にご本人様、ご家族様に話を伺い、アセスメントやコミュニケーションを図っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時などに不安やご要望などを伺っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様に必要なサービスを提供、提案を行っております。また、グループホームとはどのようなサービスなのかご説明をし、グループホーム以外のサービスが必要な際には提案をしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の選択や家事、レクリエーションを通して、「行っていただく」ではなく、「一緒に」「ともに」を意識しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族様にご連絡し、ご要望を伺っております。また、状況をご報告し、面会時は交流ができるよう、居室などにご案内しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に出かけたり、施設の体操教室で地域の方の受け入れ等を行い、関係をつくっております。	散歩や買い物時に地域の方と交流を図っている。家族と一緒に食事や旅行に出かける入居者もいる。行政関係者の訪問時には顔なじみの方と会話を交わし、行事等で地域の方が訪問する際には交流を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の相性や関係性を見極め、「かかわる」を大切にしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の退居などになられた方のご家族様にはその後の様子や状態について電話などで話す場を設けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話やご様子から生活の要望や意向をくみ取れるよう努めております。また、ご家族様にもご報告や共有をし、希望等を伺っております。	日々のケアの中で入居者の思いや意向をくみ取り、できる限り本人の思いを尊重している。職員間で情報共有を行い、また家族からも情報を得て支援に反映している。困難な場合は入居者の様子を観察し、思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査等で生活歴や生活環境を聞き取り、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタル測定を行い、体調把握に努めております。また、日中・夜間の様子について職員間情報共有し、周知しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやフロア会議等で現在の状態や状況について話し合い、ご家族様ご要望とすり合わせて反映しております。	基本的に6ヶ月に1回見直しを行い、毎月の会議やユニット会議でモニタリングも実施している。医療関係者や職員の意見に加え、家族からの「ご意見記入表」に記載された要望や意見も取り入れ、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノート、電子記録に手情報共有をしております。ご本人の状況、状態に合わせたケアを検討、実践しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している施設との連携を図り、急変があった際に看護師に診ていただくこともあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢者あんしん相談センター主催のイベントに参加しホームの様子や情報を発信しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科は月に2回、歯科衛生士、訪問看護師は週に1回訪問しております。訪問時には状態を説明し、適切な処方や対応をしていただいております。	内科医と歯科医は月2回、歯科衛生士と訪問看護は週1回訪問している。全員が訪問診療で対応し、24時間の連絡体制を整備している。緊急時には併設施設の看護師と協力し、適切な医療が提供されるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携のため、訪問看護師が定期的に訪問し、健康状態の確認を行っております。職員との情報共有をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様や医療機関に連絡し状態を把握しております。必要時、病院へ訪問し、相談員の方と話をさせていただくこともございます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に「重度化した場合の対応に係る指針」として明文化し、入居時に説明しております。日頃の状態変化を職員・ご家族様・主治医が共有し、ケアの方針を定めております。	入居時に指針を説明し、状態変化に応じて医師、家族、施設職員で対応を検討している。入居者の意向に添った対応を心がけている。職員は看取りに関する研修を受けており、医療連携を含め、終末期の看取り対応ができる体制を整えている。現在も看取りの方への対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の疾患の特徴を把握し、起こりうる状態変化について職員間把握しております。また、急変時の対応については職員が共有できるよう、掲示しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上併設事業所と合同で消防訓練を実施しております。地域の方への発信をブログ等でお知らせしております。	年2回、階上にある併設事業所と合同で訓練を実施し、災害時の連携についても確認している。実際に停電が発生した事があり、その対応内容を見直し、今後の訓練に活かすようにしている。地域への働きかけの重要性も感じており、今後その点について検討する予定である。	実際の事例から地域との連携の重要性が認識されており、今後は地域への働きかけを進め、地域の防災拠点として訓練を実施することが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合わせた声掛けをフロア会議などで話し合い共有しております。声のボリュームやトーンなどを考え、対応しております。	施設長は研修を受け、その内容を職員と会議などで共有している。日々のケアの中では、個々の入居者に合わせた声掛けの方法などを職員間で話し合い、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選んでいただいたり、レクリエーション、何に取り組みたいかなどをご本人様に伺い、選択できるよう取り組んでおります。また、自身の意向に沿った生活を送っていただいております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やご入居者様の気持ちを理解し、個々のペースに沿ったケアを行っております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回理美容サービスがあり、ご本人様にメニューを決めていただいております。また、衣類の選択やシニアセラピーなどの選択利用もしていただいております。(自費)			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつを職員と一緒に作ったり、下膳、配膳、お米研ぎなどに一緒に協力していただいております。	おやつを一緒に手作りするなどして楽しんでいる。個々の入居者の状態に合わせて、下膳や食器拭き、テーブル拭きなども協力して行ってもらっている。さらに、2フロア合同でのイベントも楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されており、栄養士によるバランスのよい献立となっております。体調や嚥下機能の変化、歯の状態に合わせて食事形態の変更も行っております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科、週に1回の歯科衛生士による口腔診療、口腔ケアを受けております。毎食後、口腔ケアのお声掛けをし、無理なく取り組んでいただいております。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮したお声掛け、誘導、対応を行っております。	個々の入居者の排泄パターンを把握し、定時や随時の声掛けを通じて必要な支援を行っている。ほとんどの入居者が自力でトイレ排泄できている。本人の希望があれば、難しい場合でも可能な限り支援し、トイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を無理なく促しております。必要に応じ、内科医と連携し、薬の処方なども行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はできる限り、ご本人様に希望を伺い、対応しております。入浴剤を使用して、楽しんでいただいたり、工夫してリラックスしていただけるよう努めております。	曜日や時間を固定せず、可能な限り本人の希望に合わせて入浴できるようにしている。リフト浴と個浴を提供し、入浴剤などを使用して季節感や香りを楽しんでもらっている。拒否があった場合は無理に勧めず、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただけるよう、夜間の照明や声掛けのトーン、室温などの調整を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容を確認し、セットしております。集団農振時の内科医の説明により、その旨職員へ共有できております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことをレクリエーションとして取り入れたり、できることをもって出せるようレクリエーションの企画に配慮しております。また、生活の一部になっていた家事やお手伝いも生活リハとして生活に盛り込んでいけるよう取り組んでおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外での散歩などは定期的に行えており、ご家族様と外出や外食も定適宜行っております。今後はコロナウイルスも5類になったことから、地域とのイベント企画や地域との交流にさらに前向きに取り組みたいです。	日常的に施設の庭の巨木を見に散歩をしたり、近隣の移動販売で買い物をしたりして気分転換を図っている。ご家族の希望があれば外出支援も行っている。また、包括主催のオレンジカフェには数名の入居者が参加している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金仮ができるご入居者様に可能な限り、希望時の飲み物購入など自動販売機などできるように対応させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるご入居者様はご家族様了承のもと、電話にて会話等をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様が共に過ごされる食堂、リビングには季節の飾りつけをしております。また、窓から見える景色や散歩により、外の植栽や気候を感じていただけるようになっております。	共用部は開口部が広く、自然光が十分に入る明るい空間で、庭の木々を見渡せる。廊下は広く、ソファなども配置されており、ゆったりとした作りになっている。壁には入居者と一緒に作った季節の飾りが施され、楽しい雰囲気が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間等に談笑されるご入居者様が様々なご入居者様とかかわることができるよう配慮しております。また、居室で過ごされることもあり、室温など声掛けにも配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスなどは備え付けですが、使い慣れた棚や仏壇等の持ち込みをしていただき、なるべく今までの生活に近いレイアウトを居室でつくること心で心地よく住んでいただけるよう、配慮しております。	ベッド、タンス、クローゼットが設置され、入居者は個々に使い慣れた家具や家族の写真、思い出の品を持ち込んでいる。家族と相談しながら、自宅に近い生活環境を作り上げている。清掃ができる入居者は職員と共にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要個所に手すりの設置があり、安全に歩行等ができるようなつくりとなっております。また、トイレとわかるような掲示や住みやすい環境に向けて職員も取り組んでいます。		